

お詫びと訂正

このたびは、日立アドバンスサーバ HA8000/RS440[2015年9月～モデル](以下 システム装置)をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

『ユーザーズガイド』に訂正箇所があります。謹んでお詫び申し上げます。


また、「LANボード(CN7730:1G 2ポート)」、「RHEL6.8」および「RHEL7.2 for SAP HANA」のサポートについて本書の巻末に記載しております。対象の製品をご使用になる場合、ご参照いただきますようお願い申し上げます。

■ユーザーズガイド ～導入編～


- 「マニュアルの使いかた」「マニュアルの構成」(P. xix)

誤
<p>『Hitachi Server Navigator』 DVD について</p> <p>『Hitachi Server Navigator』 DVD は次の条件を満たすものをお使いください。なお、複数バージョン</p> <p>・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ バージョン: 「03-32」以降のもの (RHEL7.2 使用時は「03-33」以降) ■ DVD の使用対象モデルとしてシステム装置が明記されているもの
正
<p>『Hitachi Server Navigator』 DVD について</p> <p>『Hitachi Server Navigator』 DVD は次の条件を満たすものをお使いください。なお、複数バージョン</p> <p>・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ バージョン: 「03-32」以降のもの (RHEL7.2 使用時は「03-33」以降、<u>RHEL6.8 使用時は、「03-34-A」以降</u>) ■ DVD の使用対象モデルとしてシステム装置が明記されているもの

- 「1 システム装置を導入する前に」「1.7 運用に必要なソフトウェア」「1.7.1 Hitachi Server Navigator」(P. 13)

次の内容を追加			
	RS440 CNモデルでは、「Hitachi Server Navigator」をサポートしていないため、使用できません。なお、RHEL6.6 for SAP HANA が代行インストールされているRS440 CNモデルには、「Hitachi Server Navigator」の次のソフトウェアが含まれています。		
項目	名称	RS440	
		AN/BN	CN
・・・			
Management	Log Monitor	○	○
その他	Log Monitor Logger	○	○
	Alive Monitor	○	○
	iscsi setting tool	○	-
	IT Report Utility	○	○

- 「1 システム装置を導入する前に」「1.8 RS440 CN モデルの注意」(P. 15)

次の内容を追加	
	RS440 CNモデルは、HA モニタをサポートしていません。



- 「6 内蔵 DVD-ROM の操作」「6.1 内蔵 DVD-ROM にディスクを入れる」(P. 56)

誤
通知
<ul style="list-style-type: none"> ■ ビジーインジケータの点灯中に電源を切らない ■ トレイをむりに引き出したり押し込んだりしない ■ 割れたり変形したディスクをドライブに入れない ■ 異物をトレイに入れない ■ 手動イジェクト穴はドライブが壊れたとき以外使用しない
<ol style="list-style-type: none"> 1 ビジーインジケータが点灯していないことを確認してイジェクトボタンを押し、<u>トレイを出します。</u> 2 ディスクの表側（ラベルが書かれている面）を上に向け、トレイにセットします。 トレイにあるラッチにディスクのセンター穴をカチッと音がするまで入れます。
正
通知
<ul style="list-style-type: none"> ■ ビジーインジケータの点灯中に電源を切らない ■ トレイをむりに引き出したり押し込んだりしない ■ <u>トレイは完全に引き出した状態で、ディスクをトレイにセットする</u> ■ 割れたり変形したディスクをドライブに入れない ■ 異物をトレイに入れない ■ 手動イジェクト穴はドライブが壊れたとき以外使用しない
<ol style="list-style-type: none"> 1 ビジーインジケータが点灯していないことを確認してイジェクトボタンを押します。トレイが開いたらトレイを完全に引き出します。 2 ディスクの表側（ラベルが書かれている面）を上に向け、トレイにセットします。 トレイにあるラッチにディスクのセンター穴をカチッと音がするまで入れます。

- 「付録 A 仕様」「A.1 システム装置の仕様」「A.1.1 RS440 AN モデル」(P.71,72)

- 「付録 A 仕様」「A.1 システム装置の仕様」「A.1.2 RS440 BN モデル」(P.74,75)


誤		
シリーズ	HA8000/RS440	
モデル	AN,BN	
サポート OS	VMware	VMware vSphere ESXi 6.0 (Update1b / Update2) *xx *24(*22) VMware vSphere ESXi 6.0 *xx VMware vSphere ESXi 5.5 (Update2 / Update3b) *xx
.....		
<p>.....</p> <p><u>*24 VMware vSphere ESXi 6.0 (Update2) は2016 年6 月サポート予定です。</u> (※RS440 ANの場合：*24、RS440 BNの場合：*22)</p>		
正		
シリーズ	HA8000/RS440	
モデル	AN,BN	
サポート OS	VMware	VMware vSphere ESXi 6.0 (Update1a / Update1b) *xx *24(*22) VMware vSphere ESXi 6.0 *xx VMware vSphere ESXi 5.5 (Update2 / Update3a / Update3b) *xx
.....		
<p>.....</p> <p>*24 VMware vSphere ESXi 6.0 (Update2) は2016 年6 月サポート予定です。 (※RS440 ANの場合：*24、RS440 BNの場合：*22)</p>		

■ ユーザーズガイド ～運用編～

- 「1 運用の前に」 「1.2 運用時の注意」 「1.2.1 一般的な注意」 「(2) システム装置・周辺機器の取り扱い」 (P.7)

誤	■ システム装置に SVP 機能はありません。このため、「HCSM」の電源スケジュールや SVP ログなど、SVP を利用する機能は使用できません。
正	■ システム装置に SVP 機能はありません。このため、「HCSM」の電源スケジュールや SVP ログなど、SVP を利用する機能は使用できません。 <u>なお、「HCSM」側の機能で電源スケジュールがあり、使用することができます。</u>

- 「1 運用の前に」 「1.2 運用時の注意」 「1.2.1 一般的な注意」 (P.11)

次の内容を追加	
(18) BMC リセット時の注意	
OS 稼働中に BMC リセットをした場合は、「Hitachi Server Navigator」の「Alive Monitor」や「LogMonitor」から BMC へ一時的にアクセスできなくなるため、次のメッセージが記録される場合があります。次のいずれかの方法を行ってください。	
<OS イベントログ>	
■ 「Alive Monitor」	イベントログ (Windows の場合)、および syslog (Linux/VMware の場合) メッセージ メッセージ ID : SNVAM-065-E メッセージ : Alive Monitor : There is no response from the hardware.
■ 「Log Monitor」 - Windows 版	イベントログ EventID : 1012 メッセージ : IPMI ツールの実行に失敗しました。(Failed to executing IPMI tool.)
■ 「Log Monitor」 - Linux 版、VMware vMA 版	syslog メッセージ [WARN] Failed to executing IPMI tool.
BMC リセット中、OS イベントログにこれらのメッセージが記録された場合には、特に対処は必要ありません。	
	■ 「Log Monitor」の上記イベントが 10 件に達していた場合は、BMC へのアクセスを再開させるために、「Log Monitor」のサービスを再起動してください。 ■ BMC リセット時には、Web コンソールの「システム」タブ[IPMI 情報]-[SEL] に次のイベントが記録されます。 イベント内容 : Record Type = C1h

- 「1 運用の前に」 「1.2 運用時の注意」 「1.2.1 一般的な注意」 (P.11)

次の内容を追加	
(19) システム BIOS のメモリ容量について	
OS 上で表示されるメモリ容量は、搭載メモリ容量から BIOS が確保するメモリエリアの容量が除かれている場合があります。	
BIOS が確保するメモリエリアの容量は、あらかじめ決まっている訳ではなく、システム起動時に必要になった容量を確保します。	
このため、構成が同じ装置間であっても、OS 上で表示されるメモリ容量に違いがでることがあります。	

- 「1 運用の前に」「1.2 運用時の注意」「1.2.2 VMware 運用上の注意」(P.12)

次の内容を追加
<p>(1) VMware vSphere ESXi インストール後の内蔵 RAID コントローラドライバ適用手順について</p> <p>SAS 12Gbps 対応の内蔵 RAID コントローラ（ディスクアレイコントローラ）を搭載したシステムで次の条件に該当している場合、OS インストール後に追加でドライバを適用する必要があります。</p> <p>▶ 作業が必要となる条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ VMware vSphere ESXi 5.5 Update 3a 以降をご使用の場合 ◆ VMware vSphere ESXi 6.0 Update 1a 以降をご使用の場合 ◆ 推奨ドライバが『megaraid_sas』であり、Install CD (Custom Image) 格納のドライバを使用する場合 ◆ VMware 社ダウンロードサイトより入手した推奨ドライバへ更新する場合 <p>最初に次の URL より、ご使用の VMware vSphere ESXi の『推奨ドライババージョン一覧』カテゴリ『SAS-RAID』の内容をご確認いただき、内蔵 RAID コントローラのドライバ名称およびバージョンを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VMware vSphere ESXi 5.x 推奨ドライババージョン一覧 掲載先 http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/vmware/vmw_suggested_list.html ■ VMware vSphere ESXi 6.x 推奨ドライババージョン一覧 掲載先 http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/vmware/vmw_suggested_list_esxi6.html <p>確認の結果、【作業が必要となる条件】に該当した場合は、次の URL 掲載の内容を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VMware vSphere® ESXi™ インストール後の内蔵 RAID コントローラドライバ適用手順について http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/vmware/vmw_mr_drv_chg.html

- 「1 運用の前に」「1.2 運用時の注意」「1.2.2 VMware 運用上の注意」(P.12)

次の内容を追加
<p>(6) HDD エラー監視サービスについて</p> <p>HDD エラー監視サービスは、内蔵 HDD 障害による I/O 遅延を最小限に抑止するための内蔵 RAID コントローラ用のユーティリティとなります。内蔵 RAID コントローラを搭載したシステムの場合、HDD エラー監視サービスを導入頂くことを強く推奨します。</p> <p>VMware ESXi5 または VMware ESXi6 用 HDD エラー監視サービスは以下 URL からダウンロードしてください。カテゴリ" ユーティリティ(ディスクアレイ)" で検索してください。</p> <p>http://www.hitachi.co.jp/cgi-bin/products/it/server/bladesymphony/dlserch_rev1/dlserch.cgi</p>

- 「1 運用の前に」「1.2 運用時の注意」「1.2.3 LAN 機能の注意」「(2) Linux 環境で 10G LAN を使用する場合の制限」(P.13)

誤	RHEL6 で 10GBASE-SR/10G SFP+ Direct Attach 接続/10GBASE-T 仕様の LAN を使用する場合、ドライバやシステム構成によって、不具合を回避するために追加設定が必要となります。
正	Linux で 10GBASE-SR/10G SFP+ Direct Attach 接続/10GBASE-T 仕様の LAN を使用する場合、ドライバやシステム構成によって、不具合を回避するために追加設定が必要となります。 (※対象 OS の範囲を解除 RHEL6→RHEL6 / RHEL7)

- 「1 運用の前に」「1.2 運用時の注意」「1.2.6 内蔵デバイスの注意」「(2) 内蔵 DVD-ROM の取り扱い」(P.19)

誤
ディスクをドライブに装着する際にディスクのリング(透明な中心部分)を押してください。ディスクの中心部を強く押すとレンズに当たりデータが正常に再生できなくなります。
正
ディスクをドライブに装着する際に トレイは完全に引き出した状態で 、ディスクのリング(透明な中心部分)を押してください。 ディスクの中心部を強く押すとレンズに当たりデータが正常に再生できなくなります。

- 「1 運用の前に」「1.3 運用前の設定」「1.3.3 Linux 環境で 10G LAN を使用する場合の追加設定」(P.19)

次の内容に変更

Linux RHEL6で 10GBASE-SR/10G SFP+ Direct Attach 接続/10GBASE-T 仕様の LAN を使用する場合、OS インストール後に必要となる追加設定について説明します。
→「1.2.3 LAN 機能の注意」P.13、「(2) Linux 環境で 10G LAN を使用する場合の制限」P.13

注意

LAN ドライバは、『Hitachi Server Navigator』DVD を使用してインストールしてください。

(1) 制限事項ブリッジ機能

本 LAN ボードが搭載されたシステムで、macvtap モジュールと bnx2x モジュールがロードされている場合は、カーネルパニックが発生することがあります。KVM(Kernel-based Virtual Machine) の前提であるブリッジ機能を使う場合に、追加設定が必要になります。追加設定を実施の上、ご使用ください。

- 対象 OS
 - ◆ RHEL6.6、RHEL6.8、RHEL7.2
- 対象 LAN デバイス
 - ◆ LAN ボード (10GBASE-SR、2 ポート) : CN7846
 - ◆ LAN ボード (10G SFP+ Direct Attach 接続、2 ポート) : CN7848
 - ◆ LAN ボード (10GBASE-T、2 ポート) : CN7826
- ~~ブリッジ機能~~

2 個以上の異なるイーサネットセグメント間の通信を可能とするために、2 個以上の異なるイーサネットセグメントを 1 つのイーサネットセグメントとする機能。

◆ **Large Receive Offload の無効化方法追加設定する**

macvtap モジュールと bnx2x モジュールがロードされていることを確認します。bnx2x ドライバを使用する場合は、OS インストール後に手動での設定が必要になります。なお、ブリッジ機能を使用しない場合、追加設定は不要です。

1 出力結果として次に示した確認項目にすべて該当するか確認してください。
該当する場合は、手順 2 に進みます。

```
# lsmod | grep -E "bnx2x | macvtap"
macvtap XXXXX X vhost_net
bnx2x XXXXX X
```

2 /etc/modprobe.d/dist.conf に次の設定を追記します。
options bnx2x disable_tpa=1

3 OS を再起動します。

(※対象 OS の範囲を解除 RHEL6→RHEL6 / RHEL7、対象モジュールの変更)

次の内容を追加

5.9 HCSM の管理対象からの除外、追加

システム装置のマネジメントボードを交換した場合は、BMC に設定された HCSM の通知先 IP アドレスの情報が失われます。このため、HCSM での操作により BMC に通知先 HCSM の IP アドレスを設定する必要があります。

次のいずれかの方法を行ってください。

▶ 方法 1

- 1 該当の HA8000 を管理対象から除外します(管理対象から除外)。
- 2 HA8000 を管理対象に追加します(管理対象に追加)。
この際、HCSM から BMC に対して通知先 HCSM の IP アドレスが再設定されます。
- 3 1 によって、該当の HA8000 に関連するスクリプトコマンドが削除されるので、再設定します。
- 4 1 によって、該当の HA8000 に関連する電力監視の設定が削除されるので、再設定します。



- ホスト(OS) 側の作業は不要です。
- 電力情報は、4 の作業を行うことで、再度グラフ表示することができます。

▶ 方法 2

- 1 HCSM をいったん停止します。
- 2 HCSM を起動します。HCSM から管理対象の HA8000 上にある BMC に対して、通知先 HCSM の IP アドレスが再設定されます。

◆BMC Alert Register の再設定

BMC Alert Register により、BMC に対して HCSM に通知するイベントのアラートレベルを設定している場合は、システム装置のマネジメントボードを交換した場合にアラートがすべて通知される設定に戻ります。このため、BMC Alert Register により通知するイベントのアラートレベルを再設定する必要があります。

■ ユーザーズガイド ～オプション編～

- ・ 「4 拡張ボードの取り付け」 「4.1 拡張ボードの種類」 「◆RS440 AN モデル」 (P.26)
- ・ 「4 拡張ボードの取り付け」 「4.1 拡張ボードの種類」 「◆RS440 BN モデル」 (P.27)

誤		
品名	形名	仕様
...
LAN ボード	CN7724	PCI Express 2.0、1000Base-T、2 ポート、4 レーン (×4)
	CN7744	PCI Express 2.0、1000Base-T、4 ポート、4 レーン (×4)
	CN7846	PCI Express 2.0、10GBase-SR、2 ポート、8 レーン (×8)
	CN7848	PCI Express 2.0、10G SFP+ Direct Attach 接続、2 ポート、8 レーン (×8)
	CN7826	PCI Express 2.0、10GBase-T、2 ポート、8 レーン (×8)
...
CNA ボード *4	CF7062	PCI Express 2.0、CNA 10Gbps、2 ポート、8 レーン (×8)
... *4 RHEL6.6環境は2016年4月現在サポートしていません。 サポート時期については、以下の弊社ホームページにてご連絡いたします。 URL http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/linux/product/confirm/index.html (※RS440 ANの場合：*4、RS440 BNの場合：*2)		
正		
品名	形名	仕様
...
LAN ボード	CN7724	PCI Express 2.0、1000Base-T、2 ポート、4 レーン (×4) <u>、LowProfile、iSCSI インタフェース接続サポート</u>
	CN7744	PCI Express 2.0、1000Base-T、4 ポート、4 レーン (×4) <u>、LowProfile、iSCSI インタフェース接続サポート</u>
	CN7846 *5	PCI Express 2.0、10GBase-SR、2 ポート、8 レーン (×8)
	CN7848 *5	PCI Express 2.0、10G SFP+ Direct Attach 接続、2 ポート、8 レーン (×8)
	CN7826 *5	PCI Express 2.0、10GBase-T、2 ポート、8 レーン (×8)
...
CNA ボード *4	CF7062	PCI Express 2.0、CNA 10Gbps、2 ポート、8 レーン (×8)
... *4 RHEL6.6 / RHEL6.8環境は2016年4月現在サポートしていません。 サポート時期については、以下の弊社ホームページにてご連絡いたします。 URL http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/linux/product/confirm/index.html (※RS440 ANの場合：*4、RS440 BNの場合：*2) *5 <u>SR-IOV (Single Root I/O Virtualization) 機能をサポートします。</u> <u>動作条件は、次のとおりです。</u> <u>ホストOS：Windows Server 2012 R2</u> <u>ゲストOS：Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012</u> <u>詳細については、『ユーザーズガイド』CD-ROMに格納されるそれぞれのLANボードの取扱説明書をご参照ください。</u> <u>なお、ゲストOS上のSR-IOVの仮想ポートにおいて、「NICチーム機能」はサポートしていません。</u> (※RS440 ANの場合：*5、RS440 BNの場合：*3)		

■ユーザーズガイド ～BIOS 編～

- 「1 システム BIOS」「1.5 システム BIOS 使用上の注意」「1.5.2 システム装置導入時および運用時の注意」(P.13)

次の内容を追加
<p>(9) システム BIOS のメモリ容量について</p> <p>OS 上で表示されるメモリ容量は、搭載メモリ容量から BIOS が確保するメモリエリアの容量が除かれている場合があります。</p> <p>BIOS が確保するメモリエリアの容量は、あらかじめ決まっている訳ではなく、システム起動時に必要になった容量を確保します。</p> <p>このため、構成が同じ装置間であっても、OS 上で表示されるメモリ容量に違いがでることがあります。</p>

- 「付録 A システム BIOS のセットアップメニュー一覧」「A.1.2 Advanced: 拡張メニュー」「(2) Memory Configuration: メモリー設定サブメニュー」(P.84)

誤			
B	Memory Freq. Limit*1	メモリーの動作クロック設定	【Auto】/1066MHz/1333MHz /1600MHz/1866MHz
正			
B	Memory Freq. Limit*1	メモリーの動作クロック設定	<p>■注記*7 に記載の条件に該当しない場合</p> <p style="text-align: center;">【Auto】/1066MHz/1333MHz /1600MHz/1866MHz</p> <p>■注記 *7 に記載の条件に該当する場合</p> <p style="text-align: center;">Auto / 1066MHz / 1333MHz / 【1600MHz】 / 1866MHz</p>

次の内容を追加
<p>*7 以下の対象条件すべてに該当する場合、BIOS の設定項目[Advanced]-[Memory Configuration]-[Memory Freq. Limit]をデフォルト値の"Auto"から"1600MHz"へ変更してください。:</p> <p>【対象条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> 装置形名: GUX440AN-xxxxxxx または GUX440BN-xxxxxxx BIOS バージョン: 5.6.0272 以降 [Memory RAS Mode]設定値: 「Lock Step」、「Lock Step + Rank Sparing」、「Lock Step + Mirroring」のいずれか 搭載メモリー: 32GB DDR4 2133 LRDIMM を搭載している。 <p style="text-align: center;">[Advanced]-[Memory Configuration]-[Memory Information]-[MRx_DIMMy Status] (“x” は 1~8 を、“y” は 1~8 を示します)の表示内容が 32768 MB であれば、該当します。</p>

- ・ 「付録 A システム BIOS のセットアップメニュー一覧」「A.2 システム BIOS の工場出荷時設定値一覧」(P.110, P.114)

誤	
項目	設定値
...	...
Advanced	
...	...
Memory Configuration	
...	...
Memory Freq. Limit	Auto
...	...
...	
正	
項目	設定値
...	...
Advanced	
...	...
Memory Configuration	
...	...
Memory Freq. Limit	注記*11 に記載の条件に該当しない場合 : Auto 注記*11 に記載の条件に該当する場合 : [1600MHz]
...	...
...	

*11 以下の対象条件すべてに該当する場合、[Memory Freq. Limit]の工場出荷時の設定値は1600MHzになります。

【対象条件】

- ・ 装置形名 : GUx440AN-xxxxxxx または GUx440BN-xxxxxxx
- ・ BIOS バージョン : 5.6.0272 以降
- ・ 搭載メモリー : 32GB DDR4 2133 LRDIMM

(次ページにつづく)

次の内容に変更

付録 D 論理ドライブ構築時の参考情報

論理ドライブの処理時間は、完了までに数時間かかる場合があります。
装置稼働スケジュールには、論理ドライブ処理時間を加えるようにしてください。

HDD 容量別の処理時間は以下をご参照ください。

補足 表にない HDD/SSD の処理時間は、表にある HDD/SSD の処理時間を容量比例させて計算してください。計算値はおおよその処理時間となります。
例：RAID6 3.6TB (SAS : 1.8TB 2.5 型 HDD×4) リビルト時間は、RAID6 600GB (SAS : 300GB 2.5 型 HDD×4) 約 25 分をベースにします。
約 25 分 × (1.8TB/300GB) = 約 150 分

(1) イニシャライズ時間

物理ドライブ単体容量	イニシャライズ時間
300GB (SAS 2.5 型タイプ)	約 25 分
450GB (SAS 2.5 型タイプ)	約 35 分
600GB (SAS 2.5 型タイプ)	約 55 分
1.2TB (SAS 2.5 型タイプ)	約 110 分
1.8TB (SAS 2.5 型タイプ)	約 170 分
400GB (SAS 2.5 型タイプ SSD)	約 10 分
800GB (SAS 2.5 型タイプ SSD)	約 25 分

補足 論理ドライブの初期化時間は、RAID レベル/ 論理ドライブの容量に関係なく、物理ドライブごとのタイプと単体の容量に比例します。

(2) リビルド時間

RAID レベル	論理ドライブ容量 (物理ドライブの容量と台数)	リビルド時間
RAID1	300GB (SAS : 300GB 2.5 型 HDD×2)	約 25 分
	400GB (SAS : 400GB 2.5 型 SSD×2)	約 10 分
RAID5	600GB (SAS : 300GB 2.5 型 HDD×3)	約 25 分
	800GB (SAS : 400GB 2.5 型 SSD×3)	約 15 分
RAID6	600GB (SAS : 300GB 2.5 型 HDD×4)	約 25 分
	800GB (SAS : 400GB 2.5 型 SSD×4)	約 15 分
RAID10	600GB (SAS : 300GB 2.5 型 HDD×4)	約 25 分
	800GB (SAS : 400GB 2.5 型 SSD×4)	約 10 分

補足 リビルド時間は、論理ドライブを構成する物理ドライブごとのタイプと単体容量に比例します。

(3) 容量拡張時間

RAID レベル	容量拡張条件			容量拡張時間
	容量拡張前 物理ドライブの容量と台数	容量拡張前 論理ドライブ容量	容量拡張後 論理ドライブ容量	
RAID0	SAS:300GB 2.5 型 HDD×3	900GB	1200GB(300GB×1 増設)	約 145 分
	SAS:400GB 2.5 型 SSD×3	1200GB	1600GB(400GB×1 増設)	約 65 分
RAID5	SAS:300GB 2.5 型 HDD×3	600GB	900GB(300GB×1 増設)	約 115 分
	SAS:400GB 2.5 型 SSD×3	800GB	1200GB(400GB×1 増設)	約 50 分
RAID6	SAS:300GB 2.5 型 HDD×4	600GB	900GB(300GB×1 増設)	約 115 分
	SAS:400GB 2.5 型 SSD×4	800GB	1200GB(400GB×1 増設)	約 50 分

補足 容量拡張処理時間は、拡張する前の論理ドライブの容量に比例します。増設する物理ドライブの台数は影響しません。

■ ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～

- ・ 「2 リモートマネジメント機能を使用するための準備」「2.2 リモート端末の必要条件と設定」「2.2.4 サポート Java ソフトウェア」(P.18)

誤
2 [詳細] - [高度なセキュリティ設定] から次のように「SSL 3.0を使用する」のチェックを外し、「TLS 1.0を使用する」、「TLS 1.1を使用する」、および「TLS 1.2を使用する」(TLS1.0 以上)にチェックを入れてください。 ...
正
2 [詳細] - [高度なセキュリティ設定] から次のように「 <u>SSL 2.0を使用する</u> 」と「SSL 3.0を使用する」のチェックを外し、「TLS 1.0を使用する」、「TLS 1. を使用する」、および「TLS 1.2 を使用する」(TLS 1.0以上)にチェックを入れてください。 ...

(次ページにつづく)

- ・ 「3 リモートマネジメント機能使用上の注意」「3.2 導入時および運用時の注意」「3.2.11 登録済みのユーザアカウントの取り扱い」(P.39)

誤
<p>Webコンソールには、工場出荷時、Administrator（アドミニストレータ）以外に次のユーザアカウントが設定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Compute：日立管理ソフトウェア用アカウント ■ ceconsl：保守員用アカウント <p>ユーザアカウントは、Web コンソールの [設定] タブ [ユーザ管理] で管理します。 → 「(2) ユーザ管理」 P.111</p> <p>「Compute」アカウントは、「HCSM」から探索 (Discovery) をする際や、「BMC Alert Register」からログインする際のUser ID として使用します。「Compute」アカウントは削除しないでください。アカウントを削除すると、「HCSM」や「BMC Alert Register」からBMC にアクセスできなくなり、システム装置の監視ができなくなります。</p> <p>なお、「Compute」のユーザ名とパスワードを変更する場合は、「HCSM」の設定もあわせて変更してください。</p> <p><u>「ceconsl」アカウントは、保守員が保守作業時に使用します。アカウントの削除や無効化、アカウント設定の変更、およびパスワードの変更はしないでください。</u> <u>アカウントの削除や設定を変更すると、保守員が保守作業時に必要な情報を取得できず、その後の障害解析に影響します。</u></p> <p>ユーザアカウントを追加したり削除したりする場合は、その前に「ユーザ管理」の情報をバックアップしてください。万一「Compute」、「ceconsl」アカウントを削除したり設定を変更して不具合が生じた場合、このバックアップファイルをリストアしてください。 → 「4.13 システム情報をバックアップする」 P.66、「4.14 システム情報をリストアする」 P.67 ...</p>
正
<p style="text-align: center;">「ceconsl」アカウントの記載削除</p> <p>Web コンソールには、工場出荷時、Administrator（アドミニストレータ）以外に次のユーザアカウントが設定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Compute：日立管理ソフトウェア用アカウント <p>ユーザアカウントは、Web コンソールの [設定] タブ [ユーザ管理] で管理します。 → 「(2) ユーザ管理」 P.111</p> <p>「Compute」アカウントは、「HCSM」から探索 (Discovery) をする際や、「BMC Alert Register」からログインする際のUser ID として使用します。「Compute」アカウントは削除しないでください。アカウントを削除すると、「HCSM」や「BMC Alert Register」からBMC にアクセスできなくなり、システム装置の監視ができなくなります。</p> <p>なお、「Compute」のユーザ名とパスワードを変更する場合は、「HCSM」の設定もあわせて変更してください。</p> <p>ユーザアカウントを追加したり削除したりする場合は、その前に「ユーザ管理」の情報をバックアップしてください。万一「Compute」アカウントを削除したり設定を変更して不具合が生じた場合、このバックアップファイルをリストアしてください。 → 「4.13 システム情報をバックアップする」 P.66、「4.14 システム情報をリストアする」 P.67 ...</p>

- 「3 リモートマネジメント機能使用上の注意」3.2 導入時および運用時の注意」3.2.12 BMC の初期化の禁止」(P.39)

誤	<p>システムBIOS オフラインツールの「BMC Configuration」には、BMC を初期化するための「Configuration Initialization」メニューが用意されていますが、このメニューは使用しないでください。 BMC の初期化をすると、工場出荷時に登録されている「Compute」と「cecons」のユーザアカウントがクリアされてしまい、<u>日立管理ソフトウェアからBMC にアクセスできなくなったり、保守作業時に障害情報の取得ができなくなります。</u>→「3.2.11 登録済みのユーザアカウントの取り扱い」P.39 ...</p>
正	<p>「cecons」のユーザアカウントの記載削除</p> <p>システムBIOS オフラインツールの「BMC Configuration」には、BMC を初期化するための「Configuration Initialization」メニューが用意されていますが、このメニューは使用しないでください。 BMC の初期化をすると、工場出荷時に登録されている「Compute」のユーザアカウントがクリアされてしまい、<u>日立管理ソフトウェアからBMC にアクセスできなくなります。</u>→「3.2.11 登録済みのユーザアカウントの取り扱い」P.39 ...</p>

- 「3 リモートマネジメント機能使用上の注意」3.2 導入時および運用時の注意」3.2.19 MIB ファイルについて」(P.42)

次の内容を追加	
<p>IPMI PET 仕様については、次の Web サイトをご参照ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ IPMI Platform Event Trap (IPMI PET) <p>http://www.intel.com/content/dam/www/public/us/en/documents/product-briefs/platform-event-trap.pdf</p>	

- 「3 リモートマネジメント機能使用上の注意」3.2 導入時および運用時の注意」(P.42)

次の内容を追加	
<h2 style="margin: 0;">3.2.20 BMC リセット時の注意</h2> <hr style="border: 1px solid red; margin: 5px 0;"/> <p>OS 稼働中に BMC リセットをした場合は、「Hitachi Server Navigator」の「Alive Monitor」や「LogMonitor」から BMC へ一時的にアクセスできなくなるため、次のメッセージが記録される場合があります。次のいずれかの方法を行ってください。</p> <p><OS イベントログ></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「Alive Monitor」 <ul style="list-style-type: none"> イベントログ (Windows の場合)、および syslog (Linux/VMware の場合) メッセージ メッセージ ID : SNVAM-065-E メッセージ : Alive Monitor : There is no response from the hardware. ■ 「Log Monitor」 - Windows 版 <ul style="list-style-type: none"> イベントログ EventID : 1012 メッセージ : IPMI ツールの実行に失敗しました。(Failed to executing IPMI tool.) ■ 「Log Monitor」 - Linux 版、VMware vMA 版 <ul style="list-style-type: none"> syslog メッセージ [WARN] Failed to executing IPMI tool. <p>BMC リセット中、OS イベントログにこれらのメッセージが記録された場合には、特に対処は必要ありません。</p> <hr style="border: 0.5px solid gray; margin: 5px 0;"/> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-right: 5px; text-align: center;"> ... 補足 </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「Log Monitor」の上記イベントが 10 件に達していた場合は、BMC へのアクセスを再開させるために、「Log Monitor」のサービスを再起動してください。 ■ BMC リセット時には、Web コンソールの「システム」タブ[IPMI 情報]-[SEL]に次のイベントが記録されます。 イベント内容 : Record Type = C1h </div>	

- 「4 Web コンソールを使用する」「4.3 ユーザアカウントを追加する」(P.54)

誤	<p>工場出荷時に登録されている次のアカウントは、削除したり、ユーザを無効にしたり、権限を変更したりしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Compute : 日立管理ソフトウェア用アカウント■ ceconsl : 保守用アカウント <p>これらを削除および変更すると、「HCSM」などの日立管理ソフトウェアとBMCの通信ができなくなり、また保守作業時の障害解析が困難になります。なお、「ceconsl」は、パスワードも変更しないでください。</p>
正	<p>「ceconsl」アカウントの記載削除</p> <p>工場出荷時に登録されている次のアカウントは、削除したり、ユーザを無効にしたり、権限を変更したりしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Compute : 日立管理ソフトウェア用アカウント <p>このアカウントを削除および変更すると、「HCSM」などの日立管理ソフトウェアとBMCの通信ができなくなります。</p>

(次ページにつづく)

誤



工場出荷時に登録されている次のアカウントは、削除したり、ユーザを無効にしたり、権限を変更したりしないでください。

- Compute : 日立管理ソフトウェア用アカウント
- ceconsl : 保守用アカウント

これらを削除および変更すると、「HCSM」などの日立管理ソフトウェアと BMC の通信ができなくなり、また保守作業時の障害解析が困難になります。なお、「ceconsl」は、パスワードも変更しないでください。



正

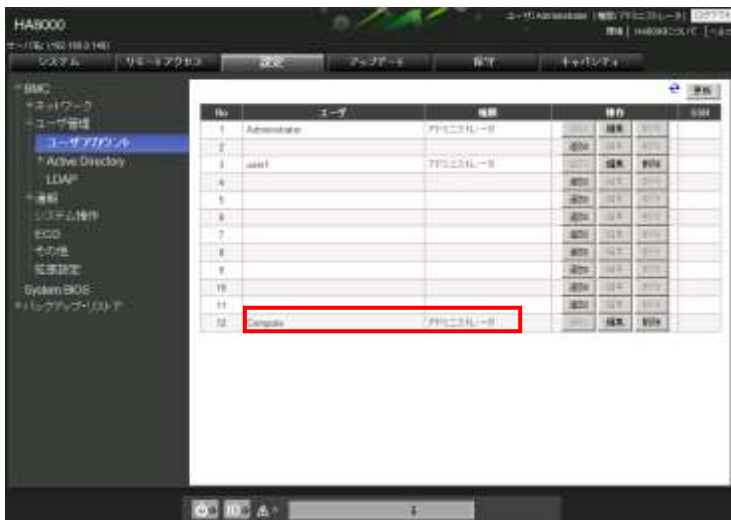
「ceconsl」アカウントの記載削除／画面修正（「Compute」アカウント追加）



工場出荷時に登録されている次のアカウントは、削除したり、ユーザを無効にしたり、ユーザ名や権限を変更したりしないでください。

- Compute : 日立管理ソフトウェア用アカウント

このアカウントを削除および変更すると、「HCSM」などの日立管理ソフトウェアと BMC の通信ができなくなります。



「LAN ボード (CN7730 : 1G 2 ポート) 」のサポート について

2016年8月末よりRS440AN/BNモデルに対して「LANボード(CN7730:1G 2ポート)」をサポート開始しました。

仕様

- PCI Express 2.0、1000BASE-T、2ポート、1レーン（×1）、ボード形状は4レーン（×4）、LowProfile、
- iSCSI インタフェース接続サポート

読み替え

『ユーザーズガイド ～運用編/オプションデバイス編～』にある“CN7724”を“CN7724/**CN7730**”に読み替えてください。

制限事項

- VMware を使用する場合の拡張スロット搭載制限があります。
詳細については、『ユーザーズガイド ～ オプションデバイス編～』の「4.2.2 拡張ボードの搭載ルール」をご参照ください。
その際、“CN7724”を“CN7724 / CN7730”に読み替えてください。

LAN ボードマニュアルの参照

『ユーザーズガイド ～運用編/オプションデバイス編～』のLANボード(CN7730:1G 2ポート)の記載は、ドライバ設定の変更や拡張スロット搭載ルールについてのみ記載されています。
ドライバインストールやiSCSI イニシエータの設定については、『LANボードマニュアル(CN7729/CN7730)～』をご参照ください。

「RHEL6.8」のサポートについて

2016年9月末よりRS440AN/BNモデルに対して「RHEL6.8」をサポート開始しました。

サポートビットとカーネル

- RHEL6.8 (64-bit x86_64)
カーネルバージョンは、「2.6.32-642.1.1.el6.x86_64」をサポートします。

読み替え

『ユーザーズガイド ~導入編/運用編/オプションデバイス編/BIOS 編/リモートマネジメント編/SAN ブート編~』にある“RHEL6.6”を“RHEL6.6/RHEL6.8”に読み替えてください。

制限事項

- CNA ボード (CF7062) は、RHEL6.8 環境をサポートしていません。

「RHEL7.2 for SAP HANA」のサポートについて

2017年1月末よりRS440 CNモデル(SAP HANA 専用)に対して「RHEL7.2 for SAP HANA」をサポート開始しました。

サポートビットと SAP HANA バージョン

- OS: RHEL7.2 for SAP HANA (64-bit x86_64)
- SAP HANA:SAP HANA1.0 SPS12

読み替え

『ユーザーズガイド ~導入編/運用編/オプションデバイス編/BIOS 編/リモートマネジメント編/SAN ブート編~』にある“RHEL6.6 for SAP HANA”を“RHEL6.6 for SAP HANA / **RHEL7.2 for SAP HANA**”に読み替えてください。

『ユーザーズガイド~UCP for SAP HANA 編~』の参照

『ユーザーズガイド ~導入編/運用編/オプションデバイス編/BIOS 編/リモートマネジメント編/SAN ブート編~』にあるRS440 CNモデル(SAP HANA 専用)の記載は、ハードウェアの構成や設定についてのみ記載されています。
詳細については、『ユーザーズガイド ~ UCP for SAP HANA 編~』をご参照ください。